

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(1階ユニット)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5ー1		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの雰囲気明るく、笑いの絶えない空間が作れるようにしています。10年以上勤続しているスタッフも複数名おり、ご利用者様・ご家族様に安心したサービスが提供出来るように努めています。閑静な環境にホームが立地しており、天気の良い日には、ホームの周辺を散歩しています。

自立支援ケアを継続的に実施しており、食事以外の水分摂取1500cc以上を目指しています。イライラ・うとうと・ぼーっとする・落ち着かない症状が改善しています。引き続き、ご利用者様に合わせた自立支援ケアを提供し、状態の改善に努めるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長く働く職員も多く、和気藹々とした仲間意識を大切に、ウイズコロナの体制を徐々につくっている事業所です。エリア内のグループホーム同士の応援体制も確立しつつあり、学習会や情報交換のほか「ミニイベントを他事業所のリーダーの協力を得て実施する」事もスタートしています。当事業所も6月に他事業所の職員が来所、暑い日にもってこいの「冷やし天ぷらうどん」、「おにぎり」「クレープ」で盛り上がりました。クレープにはバナナや生クリーム、チョコソースのほか、スイートポテトなど挟む具も沢山の、外出ができなく表出が乏しくなっていた利用者が、「自分で選ぶ」ことで主体性が蘇った場面もあり、飲みに満ちる1日となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎年その時に合わせたものに変更する。出勤時に、会社の理念も含めた理念に対し、自分が1日どのように行動をするのか、記入をしている。	法人理念は掲示しています。事業所理念は状況を鑑みて毎年見直しをおこない、職員自ら考えて作成しています。また、「その日理念に照らしてどのように業務にあたるか」を表明してから仕事に入ることで、理念を意識した言動に実っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナになる前までは回復していないものの、徐々にスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、感染対策をして、出かけることも出てきている。地域の方に挨拶をしたり、会話をしているケースも増えてきた。	近年出店したコンビニエンスストアもあり、地域の中で年々古株となっていて、地域から通う職員も長い人は10年を超え、事業所も「顔」となりつつあります。またウイズコロナが徐々に進む今日では、散歩の挨拶も軽やかになり、明るい兆しを感じています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援について理解をして頂ける機会を設けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催が出来ていないが、会議の前に意見を伺い、議事録を送付する際に、質問に対して返答をしている。	運営推進会議は人が集まる形は現状難しく、事業所で2ヶ月分の運営状況をまとめてメンバーに届ける、書面開催となっています。また、参加には及ばないものの、配付前に意見や質問を受けつけて書面上で回答を掲載して、意見交換としています。	運営推進会議のデータに「男女比」「平均年齢」「平均介護度」「行事報告」などのデータのほか、行事や外出時の写真(家族の了承が難しいなら文章で説明が欲しい)掲載があることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より介護相談員の受け入れを実施し、客観的な視点からの意見を伺っている。市役所等の担当者とも、密に連絡を取るようになっている。	沼津市からの配信メールは欠かさずチェックしています。また、ニーズとシーズが合わず成約になることは希なもの、地域包括支援センターからは空室照会が随時入っており、気にかけてもらえています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全体会議の場を通じて、繰り返し研修を実施している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	国が減算対象とする以前から法人は「虐待、身体拘束防止」には特に力を入れています。本件に特化した年間計画表まで備わり、3ヶ月に1度の不適切ケアチェックを身体拘束廃止委員会と連動させ、その取り組みは益々濃厚になっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修のスケジュールを組み、スケジュールに沿った研修を実施している。虐待防止委員会の設置も実施し、議事録を全職員に回覧して共有している。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議を通じて、権利擁護についての研修を実施し、知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に不安なことはないか、伺っている。不安や疑問がある際には、丁寧な説明を心がけ、不安や疑問が解消するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、広く意見を頂くようにしており、頂いた意見に関しては社内にて共有し、サービスの向上に繋がるようにしている。	法人で年1回家族にはアンケートをとっており、その結果に基づいた改善もマネジメントサイクルにのせているためか、外部評価の家族アンケートでも「コロナによる面会の規制、緩和の状況はこまめな連絡がほしい」といった意見に留まっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、職員アンケートを実施し、意見を伺うようにしている。その他にも、2週間に1度、面談を実施し、日頃の不安や悩み、課題を共有している。	時間は僅かですが2週に1度の職員面談を重ねて、意見のみならず課題や悩みにも応えています。長く働く職員が多いことも力になり、またウイズコロナの体制を徐々につくれているのも、和気藹々とした仲間意識を大切にしてきた賜物です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、職員個々の努力や実績、勤務状況などを評価する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をホーム長やユニットリーダーが把握に努め、研修や勉強会に活かしている。外部の研修に対しても、希望がある際には、出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の場において、他の同業者がどのような取り組みをしているのか、情報の収集・共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、場合によって1対1で話せるような時間も作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な場合には複数回話をさせて頂く機会を作り、入居前からご利用者様やご家族様と信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が何を望んでいるのかを積極的に聞き取り、計画書の作成を行っている。職員間での情報の共有も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中から、ご利用者様自身が何を望んでいるのかを聞くようにし、やりたいこと、夢の実現に向けて出来る事を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員との信頼関係を築くとともに、面会時にご家族様にも話しやすい環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の面会を受入れ、ご本人様が今までの人間関係が立ち消えとならないようにしている。	カルタ、晩酌など自宅で生活の中に溶け込んでいたこともADLの低下で難しくなっていますが、馴染みの美容院に家族に連れていってもらえている人もいて、事業所でも職員以外の人とのふれあいや交流を奨励しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの楽しみや役割を共有し、孤立をしないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了したからといって関係を断つのではなく、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から情報を聞いたり、ご本人様との日々の関わりの中から希望や意向を聞き出すようにしている。困難な場合においても、ご利用者様の立場に立ち希望や意向を把握するようにしている。	ケア日報が電子化され、連絡事項欄に利用者一人ひとりのその日、そのときの状態や様子がピンポイントで描かれ、職員の関わりと利用者本人の反応も入っています。発語の記載もあり、情景が浮かぶ記述で、安心感が湧きます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのような生活を送ってきたか、暮らし方や生活習慣を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を把握し、会議や申し送りを通じて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医やPT等、他職種と連携を図りながらそれぞれの意見を頂戴し、ケアに反映するようにしている。現状に即した計画書の作成に努めている。	職員が付けるケアプランチェック表が「やったか」「やらなかったか」の確認表として位置づけられ、専門職(理学療法士)の助言や家族意見も併せ、計画作成担当者が介護計画書をつくるという、「チームでつくる」の流れが確立しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ノータイスを使用し、記録の入力を行っている。職員間での意見を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の思いを確認し、様々なサービスで対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の地域包括支援センターと協力し、オレンジカフェを開催した。地域の方々と、ご利用者の関わる時間を作れた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が安心してご利用いただける医療が受けられるように支援をしている。	24時間オンコールの協力医が月2回訪問診療をおこない、管理者またはユニットリーダー立ちあいの下、概ね7～8割の利用者が受診しています。他の人は以前からのかかりつけ医で、家族が通院介助をおこなうため、報連相が行き違わないよう十分配慮しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回来訪して頂き、日々の状態の報告、指示を受け、日々のケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した機関に対し、介護サマリーを提供し、情報の提供をしている。スムーズに入院生活に入れるように担当者とも密に関係性の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった際には、ご家族様と話をする機会を作り、ホームで出来る事の確認、ご家族様の意向を伺い、よりよい生活が送れるように利用者様の支援に努めている。	食欲が減退したり、飲み込みがわるくなるなど重度化への進行がみられたときは、医師の所見を仰ぎ、家族と今後のことを相談のうえ、家族の決めた方針に沿って支援しています。また家族が検討しやすくなるように、これまでのケース例を話すこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを各フロアに設置し、職員には定期的に目を通して、入社時においても、目を通して、知識の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。地域の方々の参加は出来ていない状態なので、今後の課題として捉えている。	年間計画にも組み込み、毎回想定も替え、年2回実施しています。コロナ禍のため消防署の立ちあいは求めています。助言を得ることはできています。3階である利点を活かして水害や津波は垂直避難としています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けをするように職員間においても、協力をしている。	身体拘束廃止委員会では「(同じことを何度も言われたり、促しに応じてくれない等で)介護中にイラッとしてしまうことがある」との職員意見を受け、「職員同士のフォローも必要」といった解決に向けた話し合いが成されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をする機会を作り、ご本人様の思いや希望を汲み取るようにしている。思いや希望に対して、何が出来るのか、職員間で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活のペースを大切にし、どのようなホーム生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような雰囲気作りに努めており、それぞれの好みも伺うようにしている。	管理栄養士が立てた献立表と食材が法人から届き、事業所では調味料などを買い足して、職員が調理しています。畑の紫蘇でふりかけが出来たり、利用者も梅のへそとりを手伝い、月1回の調理レクではお好み焼きやホットケーキ作りで楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量1500を目指し、ご利用者様が好みの飲み物が摂取できるようにしている。栄養バランスが偏らないように管理栄養士がメニューの立案を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合った口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科の受診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	平均介護度が2.5、車いすをつかう人は3名で、全体に重くはなく、独歩でトイレに向かう人もいます。ただ、排泄チェックや観察で掴んだパターンや癖から声を掛けると失禁が減ることを含み、後処理ができない人もいることから、やはり概ね職員の手が必要となります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を各々把握するようにし、摂取量が少ない方へのアプローチ方法を職員間で検討している。偏ったメニューではなく、好きなメニューを取り揃えるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様が安心して入浴できるように、脱衣所と浴室内の環境整備をし、各人に合わせた入浴方法がとれるように、職員間において検討する。	3名が浴槽をまたげず、シャワー浴となっています。着脱着衣では傷などがいないかチェックをおこなうと、小さな内出血が見つかることもあり、早期に対処しています。柚子などの時節風呂はやるユニットもあり、やらないユニットもありで、統一はしていません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その時の気持ちを大切にし、眠れないような時には夜勤者が付き添うなど、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬して頂いている。新しく入社した職員にも服薬マニュアルは研修で知識を習得し、服薬事故がなくなるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人が出来る事やしたいことを把握し、役割を持ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状態が続いてしまっているので、今迄みたいに出外がどこでも行けるわけではないものの、近隣のコンビニやスーパーなどへは外出するようになった。	余りにコロナ禍が長く、利用者のストレスも計り知れないことから、降りないドライブだけではなく、徒歩で近隣にも出ています。マスク装着などの衛生管理をおこない、事業所周辺の店舗には買い物に出かけるようになり、少し日常に弾みがあります。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、基本的にNGとさせていたいただいています。買い物の際には、立替という形にさせていたいただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から要望があった際には、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器や温度計を設置し、快適な空間を作り出すようにしている。	1日窓を開けていて、換気は十分です。コンタクトポイントを中心としたアルコール消毒も1日4回と頻回です。また水分摂取に向け、ココアやレモンティー、珈琲などとドリンクの種類を増やしていることで、リビングでの会話も増していて、明るさにもつながっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間も作れるように、廊下にソファなどを設置して、ちょっとした空間を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や慣れ親しんだものを持ってきていただけるように、ご家族様に依頼をしている。	面会で撮影した写真を飾る部屋もあり、職員が「あの日撮ったね」と話しかけると嬉しそうに微笑んでくださいます。また、身体の状態に応じて、居室担当者やリーダーが主になり、ベッドの位置や頭の向きの見直しは随時おこなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフの見守りをするポジショニングに注意をして見守りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(2階ユニット)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの雰囲気明るく、笑いの絶えない空間が作れるようにしています。10年以上勤続しているスタッフも複数名おり、ご利用者様・ご家族様に安心したサービスが提供出来るように努めています。閑静な環境にホームが立地しており、天気の良い日には、ホームの周辺を散歩しています。

自立支援ケアを継続的に実施しており、食事以外の水分摂取1500cc以上を目指しています。イライラ・うとうと・ぼーっとする・落ち着かない症状が改善しています。引き続き、ご利用者様に合わせた自立支援ケアを提供し、状態の改善に努めるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長く働く職員も多く、和気藹々とした仲間意識を大切に、ウイズコロナの体制を徐々につくっている事業所です。エリア内のグループホーム同士の応援体制も確立しつつあり、学習会や情報交換のほか「ミニイベントを他事業所のリーダーの協力を得て実施する」事もスタートしています。当事業所も6月に他事業所の職員が来所、暑い日にもってこいの「冷やし天ぷらうどん」、「おにぎり」「クレープ」で盛り上がりました。クレープにはバナナや生クリーム、チョコソースのほか、スイートポテトなど挟む具も沢山の、外出ができなく表出が乏しくなっていた利用者が、「自分で選ぶ」ことで主体性が蘇った場面もあり、飲みに満ちる1日となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎年その時に合わせたものに変更する。出勤時に、会社の理念も含めた理念に対し、自分が1日どのように行動をするのか、記入をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナになる前までは回復していないものの、徐々にスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、感染対策をして、出かけることも出てきている。地域の方に挨拶をしたり、会話をしているケースも増えてきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援について理解をして頂ける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催が出来ていないが、会議の前に意見を伺い、議事録を送付する際に、質問に対して返答をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より介護相談員の受け入れを実施し、客観的な視点からの意見を伺っている。市役所等の担当者とも、密に連絡を取るようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全体会議の場を通じて、繰り返し研修を実施している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修のスケジュールを組み、スケジュールに沿った研修を実施している。虐待防止委員会の設置も実施し、議事録を全職員に回覧して共有している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議を通じて、権利擁護についての研修を実施し、知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に不安なことはないか、伺っている。不安や疑問がある際には、丁寧な説明を心がけ、不安や疑問が解消するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、広く意見を頂くようにしており、頂いた意見に関しては社内にて共有し、サービスの向上に繋がるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、職員アンケートを実施し、意見を伺うようにしている。その他にも、2週間に1度、面談を実施し、日頃の不安や悩み、課題を共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、職員個々の努力や実績、勤務状況などを評価する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をホーム長やユニットリーダーが把握に努め、研修や勉強会に活かしている。外部の研修に対しても、希望がある際には、出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の場において、他の同業者がどのような取り組みをしているのか、情報の収集・共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、場合によって1対1で話せるような時間も作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な場合には複数回話をさせて頂く機会を作り、入居前からご利用者様やご家族様と信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が何を望んでいるのかを積極的に聞き取り、計画書の作成を行っている。職員間での情報の共有も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中から、ご利用者様自身が何を望んでいるのかを聞くようにし、やりたいこと、夢の実現に向けて出来る事を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員との信頼関係を築くとともに、面会時にご家族様にも話しやすい環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の面会を受入れ、ご本人様が今までの人間関係が立ち消えとならないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの楽しみや役割を共有し、孤立をしないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了したからといって関係を断つのではなく、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から情報を聞いたり、ご本人様との日々の関わりの中から希望や意向を聞き出すようにしている。困難な場合においても、ご利用者様の立場に立ち希望や意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのような生活を送ってきたか、暮らし方や生活習慣を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を把握し、会議や申し送りを通じて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医やPT等、他職種と連携を図りながらそれぞれの意見を頂戴し、ケアに反映するようにしている。現状に即した計画書の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ノータイスを使用し、記録の入力を行っている。職員間での意見を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の思いを確認し、様々なサービスで対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の地域包括支援センターと協力し、オレンジカフェを開催した。地域の方々と、ご利用者様の関わる時間を作れた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が安心してご利用いただける医療が受けられるように支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回来訪して頂き、日々の状態の報告、指示を受け、日々のケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した機関に対し、介護サマリーを提供し、情報の提供をしている。スムーズに入院生活に入れるように担当者とも密に関係性の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった際には、ご家族様と話をする機会を作り、ホームで出来る事の確認、ご家族様の意向を伺い、よりよい生活が送れるように利用者様の支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを各フロアに設置し、職員には定期的に目を通して、入社時においても、目を通して、知識の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。地域の方々の参加は出来ていない状態なので、今後の課題として捉えている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けをするように職員間においても、協力をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をする機会を作り、ご本人様の思いや希望を汲み取るようにしている。思いや希望に対して、何が出来るのか、職員間で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活のペースを大切にし、どのようなホーム生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような雰囲気作りに努めており、それぞれの好みも伺うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量1500を目指し、ご利用者様が好みの飲み物が摂取できるようにしている。栄養バランスが偏らないように管理栄養士がメニューの立案を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合った口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科の受診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を各々把握するようにし、摂取量が少ない方へのアプローチ方法を職員間で検討している。偏ったメニューではなく、好きなメニューを取り揃えるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様が安心して入浴できるように、脱衣所と浴室内の環境整備をし、各人に合わせた入浴方法がとれるように、職員間において検討する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その時の気持ちを大切にし、眠れないような時には夜勤者が付き添うなど、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬して頂いている。新しく入社した職員にも服薬マニュアルは研修で知識を習得し、服薬事故がなくなるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人が出来る事やしたいことを把握し、役割を持ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状態が続いてしまっているので、今迄みたいに外出がどこでも行けるわけではないものの、近隣のコンビニやスーパーなどへは外出するようになった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、基本的にNGとさせていただきます。買い物の際には、立替という形にさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から要望があった際には、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器や温度計を設置し、快適な空間を作り出すようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間も作れるように、廊下にソファなどを設置して、ちょっとした空間を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や慣れ親しんだものを持ってきていただけるように、ご家族様に依頼をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフの見守りをするポジショニングに注意をして見守りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道（3階ユニット）		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5－1		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jigyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの雰囲気明るく、笑いの絶えない空間が作れるようにしています。10年以上勤務しているスタッフも複数名おり、ご利用者様・ご家族様に安心したサービスが提供出来るように努めています。閑静な環境にホームが立地しており、天気の良い日には、ホームの周辺を散歩しています。

自立支援ケアを継続的に実施しており、食事以外の水分摂取1500cc以上を目指しています。イライラ・うとうと・ぼーっとする・落ち着かない症状が改善しています。引き続き、ご利用者様に合わせた自立支援ケアを提供し、状態の改善に努めるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長く働く職員も多く、和気藹々とした仲間意識を大切に、ウイズコロナの体制を徐々につくっている事業所です。エリア内のグループホーム同士の応援体制も確立しつつあり、学習会や情報交換のほか「ミニイベントを他事業所のリーダーの協力を得て実施する」事もスタートしています。当事業所も6月に他事業所の職員が来所、暑い日にもってこいの「冷やし天ぷらうどん」、「おにぎり」「クレープ」で盛り上がりました。クレープにはバナナや生クリーム、チョコソースのほか、スイートポテトなど挟む具も沢山の、外出ができなく表出が乏しくなっていた利用者が、「自分で選ぶ」ことで主体性が蘇った場面もあり、飲みに満ちる1日となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は毎年その時に合わせたものに変更する。出勤時に、会社の理念も含めた理念に対し、自分が1日どのように行動をするのか、記入をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナになる前までは回復していないものの、徐々にスーパーやコンビニに買い物に出かけたり、感染対策をして、出かけることも出てきている。地域の方に挨拶をしたり、会話をしているケースも増えてきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の理解や支援について理解をして頂ける機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催が出来ていないが、会議の前に意見を伺い、議事録を送付する際に、質問に対して返答をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所より介護相談員の受け入れを実施し、客観的な視点からの意見を伺っている。市役所等の担当者とも、密に連絡を取るようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、全体会議の場を通じて、繰り返し研修を実施している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待研修のスケジュールを組み、スケジュールに沿った研修を実施している。虐待防止委員会の設置も実施し、議事録を全職員に回覧して共有している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議を通じて、権利擁護についての研修を実施し、知識の習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時に不安なことはないか、伺っている。不安や疑問がある際には、丁寧な説明を心がけ、不安や疑問が解消するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、広く意見を頂くようにしており、頂いた意見に関しては社内にて共有し、サービスの向上に繋がるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、職員アンケートを実施し、意見を伺うようにしている。その他にも、2週間に1度、面談を実施し、日頃の不安や悩み、課題を共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、職員個々の努力や実績、勤務状況などを評価する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をホーム長やユニットリーダーが把握に努め、研修や勉強会に活かしている。外部の研修に対しても、希望がある際には、出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の場において、他の同業者がどのような取り組みをしているのか、情報の収集・共有を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、場合によって1対1で話せるような時間も作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に可能な場合には複数回話をさせて頂く機会を作り、入居前からご利用者様やご家族様と信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様が何を望んでいるのかを積極的に聞き取り、計画書の作成を行っている。職員間での情報の共有も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中から、ご利用者様自身が何を望んでいるのかを聞くようにし、やりたいこと、夢の実現に向けて出来る事を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員との信頼関係を築くとともに、面会時にご家族様にも話しやすい環境を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の面会を受入れ、ご本人様が今までの人間関係が立ち消えとならないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの楽しみや役割を共有し、孤立をしないようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了したからといって関係を断つのではなく、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から情報を聞いたり、ご本人様との日々の関わりの中から希望や意向を聞き出すようにしている。困難な場合においても、ご利用者様の立場に立ち希望や意向を把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのような生活を送ってきたか、暮らし方や生活習慣を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を把握し、会議や申し送りを通じて情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医やPT等、他職種と連携を図りながらそれぞれの意見を頂戴し、ケアに反映するようにしている。現状に即した計画書の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ノータイスを使用し、記録の入力を行っている。職員間での意見を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の思いを確認し、様々なサービスで対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内の地域包括支援センターと協力し、オレンジカフェを開催した。地域の方々と、ご利用者様の関わる時間を作れた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が安心してご利用いただける医療が受けられるように支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回来訪して頂き、日々の状態の報告、指示を受け、日々のケアに反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した機関に対し、介護サマリーを提供し、情報の提供をしている。スムーズに入院生活に入れるように担当者とも密に関係性の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった際には、ご家族様と話をする機会を作り、ホームで出来る事の確認、ご家族様の意向を伺い、よりよい生活が送れるように利用者様の支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを各フロアに設置し、職員には定期的に目を通して、入社時においても、目を通して、知識の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。地域の方々の参加は出来ていない状態なので、今後の課題として捉えている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けをするように職員間においても、協力をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をする機会を作り、ご本人様の思いや希望を汲み取るようにしている。思いや希望に対して、何が出来るのか、職員間で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活のペースを大切にし、どのようなホーム生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような雰囲気作りに努めており、それぞれの好みも伺うようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量1500を目指し、ご利用者様が好みの飲み物が摂取できるようにしている。栄養バランスが偏らないように管理栄養士がメニューの立案を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれに合った口腔ケアを実施している。必要に応じて訪問歯科の受診を受けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を各々把握するようにし、摂取量が少ない方へのアプローチ方法を職員間で検討している。偏ったメニューではなく、好きなメニューを取り揃えるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様が安心して入浴できるように、脱衣所と浴室内の環境整備をし、各人に合わせた入浴方法がとれるように、職員間において検討する。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その時の気持ちを大切に、眠れないような時には夜勤者が付き添うなど、安心した夜間生活が送れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬して頂いている。新しく入社した職員にも服薬マニュアルは研修で知識を習得し、服薬事故がなくなるように努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人一人が出来る事やしたいことを把握し、役割を持ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状態が続いてしまっているので、今迄みたいに外出がどこでも行けるわけではないものの、近隣のコンビニやスーパーなどへは外出するようになった。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、基本的にNGとさせていただきます。買い物の際には、立替という形にさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から要望があった際には、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器や温度計を設置し、快適な空間を作り出すようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間も作れるように、廊下にソファなどを設置して、ちょっとした空間を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や慣れ親しんだものを持ってきていただけるように、ご家族様に依頼をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフの見守りをするポジショニングに注意をして見守りをしている。		